

具体的な施策・重要業績評価
指標（K P I）進捗状況評価票
【令和元年度 3 施策】
（第 4 回協議会審議用）

No.	具体的な施策名
1	地域交流・活動の促進
2	ラグビーのまち府中推進事業
3	市有財産の活用による中心市街地活性化に向けた まちづくり推進事業

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票 (対象:令和元年度)

基本目標	4	地域とつながる安心な暮らしの確保
基本的方向	2	地域コミュニティの活性化
具体的な施策	①	地域交流・活動の促進
主担当課	地域コミュニティ課、協働推進課、指導室	
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の社会的な孤立を防ぐとともに、子どもや学生が地域づくりに関わる機会を持てるよう、幅広い世代の交流を促進し、地域社会を支える共同体の機能を深めます。 ・相互友好協定を結んでいる東京外国語大学及び、東京農工大学及び明治大学をはじめ、市内の企業や市民活動団体等と連携することで、地域課題を市と市民が協働して解決する体制の整備を目指します。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
		目標					
		実績	実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 各文化センター圏域でのコミュニティ事業参加者数	人	231,000					
		222,427	228,575	238,754	236,873	228,588	182,514
		/	A	A	A	A	B
② 市と大学や企業等が協働実施している事業数	事業	現状値以上					
		59	56	41	43	54	55
		/	B	C	B	B	B

- ※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>①地域の特色を活かした各種行事を、地域の人々が参加しやすい工夫を凝らしながら市民と協働し実施することができた。圏域ごとの課題への対応については、他センターの成功事例を参考にし、改善を試みている。</p> <p>事業参加者数の減少は、地域まつり開催時期の悪天候や台風 19 号の上陸による事業の中止、また年度末の新型コロナウイルス感染拡大により事業が中止になったことによる。</p>
B	<p>②大学との連携については、市内の大学や協定を結んでいる市外の大学と継続して協働事業を実施し、良き協働のパートナーとなっている。企業との連携については、新たな企業と包括協定を締結し、従来から締結している企業と併せて庁内に活用を促す取組を実施した。</p>
【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評 価	<p>①各地域の特色を活かした圏域住民のニーズを勘案した事業を企画、実施することができた。コミュニティ協議会は自治会・PTA・青少対をはじめ、市民活動の中心的な団体で構成されているため、協議会主催の事業を協働で実施していくことにより、地域の結束力を高め、災害時にも共助できる人間関係の形成につながっている。コミュニティ協議会の存在と協議会が展開する事業が、人間関係が希薄になる現代社会において、地域の繋がりを強化する役割を担っている。</p> <p>協議会委員の高齢化、固定化の傾向がみられる点と参加者数が横ばい状態になっている点が憂慮されるが、近年は消防署や地域包括支援センター、防犯協会、社会福祉協議会など幅広い組織の協力もあり、コミュニティ事業のさらなる発展につながると考えている。</p>
B	<p>②大学との連携については、市内の大学等と継続的に協働実施を行っており、良き協働のパートナーとしての関係を築けている。企業との連携については、個別協定や包括協定を締結している企業等と連携して事業を実施している。包括協定締結企業も3企業に増えており、庁内に活用を促す取組も実施した。</p>

【令和2年度における取組など】

①各コミュニティ協議会が計画していた事業は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年度当初から軒並み実施できない現況であるが、「新しい生活様式」を考慮しながら、従来とは違う事業展開の方策を講じ、将来的に継続して取り組む必要がある。

②大学との連携については、引き続き、市内の大学や過去からの協働実施している大学と事業を実施する。企業との連携については、引き続き、個別協定や包括協定を締結している企業等と事業を実施するとともに、事業内容の更なる充実のため、新規開拓を含めて実施していく。

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】

協議会 評価	<p>①について、事業参加者数の大幅減（前年比：-46,074人）は新型コロナウイルスと悪天候（含：台風19号等）が影響していると推察される。前者に関しては当面の間、終息の目途が立たない状況下であり、“ウィズ・コロナ”の観点から3密回避など十分な対策を施したうえでの事業開催のあり方の検討が重要となる。こうした対応が遅れた場合、事業参加者数に留まらず事業数の大幅減の可能性もありえるので喫緊の対応を期待したい。これと併せて、コミュニティ協議会委員の世代交代など、事業の次世代への継承に向けた運営面での取り組みへの着手にも期待したい。</p>
B	<p>②については、昨年度からも1事業増加しており、急激な減少（-15事業減）となったH28以降、事業数が継続的に増加傾向にある点は高く評価できる。また、昨年度に指摘した企業等との連携数が増加している点も評価に値する。しかし、次年度は、新型コロナウイルスによる影響を極力回避するため、3密回避を基本方針としつつ様々な観点（事業内容、開催方法など）から対策を講じることが必要である。</p>

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票
(地方創生関連交付金対象事業)
(対象:令和元年度)

事業名	ラグビーのまち府中推進事業	
基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策	②	地域の連携によるにぎわいの創出
主担当課	政策課	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ラグビーを新たな地域資源として捉え、様々なイベントの実施などによりラグビー人気の定着を図るとともに、PR活動の推進、市内の子どもたち向けラグビー教室の開催などにより、市内外において「ラグビーのまち府中」のイメージを確立させます。 ・「ラグビーのまち府中推進委員会」を立ち上げ、イベントの実施などを官民協働で実施することで、まちの賑わいづくりにおける共通認識とビジョンの共有を図り、将来の中心市街地活性化および商業の活性化に繋がります。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
		目標 (H28 年度)		目標 (H31 年度)		
		実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① ラグビーに関連する特産物や商品、飲食メニューの開発（市内ラグビー関連スポット）	件	5		20		
		0	3	3	3	8
		※平成27年度の実績	B	C	C	B
② 市内でのラグビー関連イベントの参加者	人	5,000		10,000		
		1,500	7,500	8,750	9,180	240,530
		※平成27年度の実績	A	A	A	A
③ 大学やトップチームと連携するラグビー関連事業数	事業	2		9		
		2	5	8	12	20
		※平成27年度の実績	A	A	A	A

④	休日のけやき並木通りの歩行者通行量	人	現状値以上				
			19,378	15,586	25,500	26,232	28,330
			※平成27年度の実績	C	A	A	A
⑤	市内にラグビーチームが存在することを認知している市民の数 ※市政世論調査に基づく推計値	人	257,650				
			128,052	—	171,853	199,677	169,373
			※平成27年度の実績	—	A	A	B

- ※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	令和元年度は、「ラグビーのまち府中推進委員会」の活動が4年目となり、前年度までの取組に加え、RWC2019の開催に伴い、公認チームキャンプ地及び「ラグビーのまち府中」のPRのため、関連事業を実施し、事業の拡大を行った。
A	指標②③の関連では、トップリーグ2チームや市内ラグビーチーム、市民団体との協働事業を継続拡大し、参加者・事業者数ともに増加となり、市民認知度もほぼ横ばいを維持している。指標①に関連するラグビー関連商品等の開発販売についてはRWC2019開幕直前に放送されたTBSドラマ「ノーサイドゲーム」とのコラボ商品の開発が進み、数が増加し、大きくPRを行うことができた。
【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評価	平成28年度よりラグビーを地域資源として捉え、「ラグビーのまち府中」のイメージを確立させるために、ラグビーのまち府中推進委員会を中心に官民協働で様々なイベントやPRを展開し、令和元年度のRWC2019を一つの目標として、気運醸成を図ってきた。指標の②③は大きく目標値を上回ることができた。指標⑤は目標値には届かなかったが、一定数の増加が達成できた。指標①について伸び悩んでいたが、RWC2019開催年となった令和元年度に開発が進み、目標値には届かないものの増加した。ひとつの集大成となった令和元年度は、RWC2019の公認チームキャンプ地となり、パブリックビューイング等のイベントが大いに盛り上がり、国内外から多くの来訪者があり、多数のメディアにも取り上げられ、「ラグビーのまち府中」を全国に広くPRすることができた。
A	
【令和2年度における取組など】	
<p>令和2年度は東京2020オリンピック・パラリンピックの開催年であったが、新型コロナウイルスの影響で令和3年度へ延期となった。7人制ラグビー日本代表の受入れは、継続的に実施していくため、キャンプ地のPRと一体となって「ラグビーのまち府中」PR事業の相乗的な展開を図っていく。</p> <p>①のラグビー関連商品開発については、引き続き、商工会議所・商店街連合会のほか、庁内関係部署、観光協会・まちづくり府中、市内事業者等と連携し、商品開発に限らず、飲食店のメニュー開発などを広い視点で検討を進めていく。</p> <p>②③に関しては、令和元年度までの事業を継続して展開するとともに、東京2020オリンピックに関連したイベント（7人制ラグビー日本代表に関連したイベント）等を実施することにより、イベント参加者及び協働して実施する事業数の拡大を目指していく。</p>	

※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。

B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。

C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標(KPI)進捗状況評価票
(地方創生関連交付金対象事業)
(対象:令和元年度)

事業名	市有財産の活用による中心市街地活性化に向けたまちづくり推進事業 ※平成29年度より「中心市街地活性化事業」と統合	
基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策	②	地域の連携によるにぎわいの創出
主担当課	財産活用課、産業振興課、観光プロモーション課、政策課	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・官民連携による市有地活用のための民間事業者の募集および契約に当たり、助言や支援を受けるためのアドバイザー業務を委託し進めます。 ・中心市街地における「にぎわいの創出」と「回遊性の向上」を図るため、商業者等が一体となった取組を中心的に推進するまちづくり府中へのスタートアップ支援や、活動目的であるエリアマネジメントの推進に向けた支援を行います。 ・J R A 東京競馬場の来場者を中心市街地へ呼び込むための取組として、購入した馬券を提携店舗で提示することでサービスが受けられる「東京競馬応援サポーターズ事業」を実施しています。この事業の取組回数の拡大および効果的なP R 方法の検討により認知度を向上させるとともに、提携店舗を増加させることにより来場者の多様なニーズに応えられるような環境を整備することで、J R A 東京競馬場来場者の中心市街地における飲食を促し、商業の活性化を図ります。 	

1 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	単位	現状	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
		目標				
		実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
① 府中駅周辺公共施設の再編に伴う新たな活用を行う施設数	件	2				
		0	0	1	1	0
		※平成27年度の実績	A	A	A	A
② 休日のけやき並木通りの歩行者通行量	人	現状値以上				
		19,378	15,586	25,500	26,232	28,330
		※平成27年度の実績	C	A	A	A
③ 大規模商業施設の年間販売額	億円	353				
		339	334	300	350	360
		※平成27年度の実績	B	B	B	A

④	東京競馬場タイアップ参加店舗数	店舗	20		100		
			17	100	66	44	52
			※平成27年度の実績	A	C	C	C
⑤	東京競馬場タイアップ来店数	組	200		16,000		
			104	17,190	8,465	2,236	4,149
			※平成27年度の実績	A	C	C	C

- ※進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【令和元年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>①府中グリーンプラザ敷地活用事業については、平成29年度に締結した基本協定をもとに事業者と引き続き協議・調整を行い、新施設開業に向け準備を進めた。また、旧ふれあい会館については解体工事が完了した。</p> <p>②一般社団法人まちづくり府中への委託事業として実施した「キテキテ府中マルシェ」は、5月と11月に開催し、多くの方にご来場いただいた。このほかにも、「むさし府中まちゼミ」などのソフト施策の充実、効果的な連携などにより、昨年度比増となった。</p> <p>③一般社団法人まちづくり府中が主催する府中駅南口に立地する大規模商業施設間の合同セール「キテキテ府中」やラグビーワールドカップ2019の開催に伴い、飲食ブースやステージイベント等を組み合わせた「府中ストリートバル」を実施したことで集客増加に寄与した。大規模商業施設の年間販売額については、ル・シーニュの売上が年間を通して加算されたことにより、昨年度比で10億円の増加となった。</p> <p>④⑤令和元年度の取り組みとしては、例年秋競馬開催時期に合わせ実施していたものを、春競馬開催時期に合わせ実施したところ昨年度比増となった。</p>
B	
【5年間（平成27年度～令和元年度）の事業の総括】	
担当課 評 価	<p>官民連携による市有地活用に関して、旧ふれあい会館跡地に関しては、平成30年度に市事業の代替地として活用することとなったが、府中グリーンプラザ敷地活用事業については、平成29年度に事業者と基本協定の締結を行い、官民連携による活用に向け、着実に事業を進められている。</p> <p>また、中心市街地における「にぎわいの創出」と「回遊性の向上」を図るため、平成28年12月に設立した一般社団法人まちづくり府中により様々な事業が展開され、中心市街地のエリアマネジメントが推進されている。これらの取組により、「休日のけやき並木通りの歩行者通行量」や「大規模商業施設の年間販売額」の指標については、目標値を超える進捗状況であるが、回遊性向上を図る東京競馬場タイアップ事業に関する数値については、目標達成に至っていない状況にある。引き続き回遊性の向上には課題が残るものの、中心市街地の活性化については、関係団体との連携が図られており、着実に推進されているものと捉えている。</p>
B	

【令和2年度における取組など】

- ①府中グリーンプラザ敷地活用事業に係る民間事業者による新施設しゅん工に向け、関係者と調整を行いながら、着実に事業を進める。
- ②市内外から多くの方に来訪いただくよう、新たな事業として「まちバル」や「ふちゅうパンマルシェ」などを実施し、回遊していただくための仕掛けづくりに努め、休日の歩行者通行量増加を目指す。
- ③昨年9月末に伊勢丹府中店が閉店をしたことや新型コロナウイルスの影響により、府中駅周辺商業施設の売り上げに大きな影響を及ぼすものと想定されるが、これまで以上に関係者との連携強化を図りながら、集客増加に寄与するソフト事業の更なる充実を図ることで、目標達成を目指す。
- ④⑤東京競馬場とのタイアップ事業については、昨年度、春競馬開催時期のみの開催であったが、春及び秋競馬開催時期に合わせそれぞれ実施することで、参加者増加を目指す。

- ※評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】

協議会 評 価	
------------	--

- ※評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。